

山形保険医新聞

Yamagata medical practitioners newspaper

発行
山形県保険医協会

〒990-0043 山形市本町二丁目1の2フコク生命ビル
電話 023 (642) 2838
FAX 023 (642) 2839

購読料 年共1ヵ月 500円
印刷 コロニー印刷

第512号

7月号 TOPICS

- 2面…オン資義務化・保険証廃止撤回求める
- 3面…医科新点数疑義解釈
- 4面…金バラ7月随時改定実施
- 5面…日本の城郭こぼれ話
- 6面…会員訪問

2022年 前期 院内研修用解説動画Web配信 保健所の立入検査に対応

医療法に義務付けられた医療安全管理・院内感染対策の職員研修は、年2回程度実施することとされ、保健所の立入検査で研修記録が確認される。

協会は、毎年2回県内4会場で開催していた医療安全管理研修会を新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止し、院内研修用テキストを作成。昨年の視聴後アンケートでWeb配信を支持する声が多かったことから、解説動画を併せて作成し、6月27日から7月31日まで会員限定で配信している。

希望者にはテキストとID・パスワードが記載された視聴案内が届き、協会ホームページより視聴できる。

また2020年より放射線診療に従事する者に対する研修が年1回以上義務付けられ、昨年春から診療用放射線に関する研修用テキストと解説動画の作成も併せて行っている。

医療安全管理は、全国保険医団体連合会が今年発行した「保険医のための災害対策必携(2022年1月改訂版)」をテキストに、医療機関での日常的な災害対策について豊田博巳副理事長が解説を行った。

山形県でも2019年6月から3年の間に、地震や

台風、豪雨などにより、医療機関が休診を余儀なくされる事態におちいった。ハザードマップや避難場所の確認、風水害から医療機器を守る対策など日頃から防災・減災の備えを行うことで、いざという時に患者や職員の安全を守ることができ

る。

院内感染対策は、昨年の視聴後アンケートで最も要望が多かった「個人防護具(PPE)の適正使用」をテーマに、ICD認定医の中島幸裕理事長が解説を行った。PPEは感染経路を断つための有効な手段だが、着脱方法を間違えると、せっかくの効果が失われてしまうことにもなりかねない。正しい着脱方法について、確認する機会にしたい。

医療機関での診療用放射線に係る職員研修は、①診療被ばくの考え方、②放射線診療の正当化、③放射線診療の防護の最適化、④放射線障害が生じた場合の対応、⑤放射線診療を受ける者への情報提供の5項目がある。今回の解説動画では、「医療用放射線の利用に係る安全な管理のための研修」として、中島理事長が解説。職種等に合わせ、5項目のうち必要な項目を選んで研修できる。

6月末現在、医療安全管理と院内感染対策テキストは約1800冊、医療用放射線テキストは、約1100冊の注文があった。テキストには、院内研修記録用紙が掲載されており、院内研修を行った日時や参加者等を記載し保管しておく。解説動画は必ず視聴しなければならぬというだけでなく、テキストを活用し院内研修を行うなど、各医療機関の任意で研修を行えば良い。

今後Web配信の研修などを企画するので、ぜひ参加をお願いしたい。

山形県保険医協会 2022年前期 医療安全管理
院内研修用テキストとWeb配信のご案内

医療・歯科
保健所立ち入り検査対応

医療安全管理

院内感染対策

医療機関における災害対策

個人防護具(PPE)の適正使用

医療用放射線の利用に係る安全な管理のための研修

動画解説

豊田 博巳 山形県保険医協会副理事長
中島 幸裕 ICD(インфекションコントロールドクター) 認定医
山形県保険医協会理事長

動画時間

医療安全管理・院内感染対策 約 30分
医療用放射線研修 約 60分 ※5項目の研修の合計

視聴期間

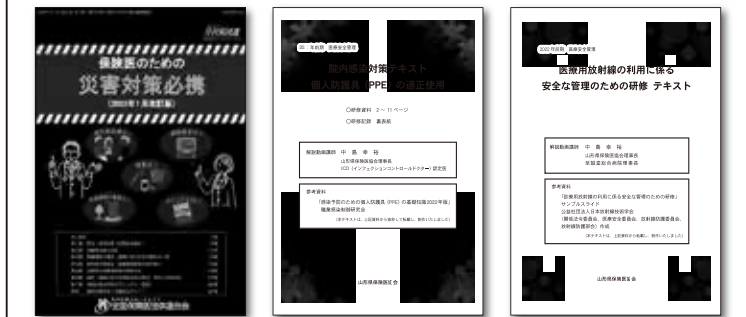
6月27日(月)・7月31日(日)

視聴方法

YouTube による Web 配信方式
インターネットによる視聴環境をご準備ください
視聴方法、ID、パスワードはテキストに同封します

対象

会員医療・歯科診療所、病院の全ての職員
放射線研修は放射線診療に従事する職員



お問い合わせは山形県保険医協会へご連絡ください
〒990-0043 山形市本町2丁目1-2 フコク生命ビル 2F <https://www.hokeni-yamagata.jp/>

75歳以上窓口負担2割化中止を 求める署名 9月末まで延長

引き続きご協力お願いします
お手元の署名・ポケットティッシュをぜひご活用ください

県内(6月末まで)

3,569筆

署名ハガキに寄せられた声

- 受診控えは必ず健康悪化に結び付くと思われる。
- 年齢を重ねるごとに高齢者負担への不安と病気に対する不安、生きることへの絶望的不安が倍増しています。どうしようこれから。
- 年齢が上がると医療費の負担がますます大きくなることは明らか。路頭に迷う。
- 2人とも心疾患で月一度病院へ受診しています。薬代だけでも1ヵ月で1万円かかります。年金暮らしなのに何もかも値上がりで、どうして生きていけばいいのでしょうか。
- 高齢者は限界です。
- 体の方が次々悪くなるばかりで、寂しい老後です。絶対絶対反対。
- 医療費負担が1割になろうかとの時に2割に据え置かれ、75歳になってやっと1割になったと思ったらまた2割に逆戻りするなんて、高齢者は早く死ぬということなのか!もう少し高齢者を大事にする政治を行っていただきたい。



新型コロナウイルス
ウィルスが流行の兆しを見せてから2年以上経ち、マスク着用や自

粛生活が当たり前になったが、いち早い元通りの状況が待ち遠しい。副題がリスクゼロ症候群に罹った日本人への処方箋「自粛バカ」の著者、池田清彦氏は安全というの科学的な話で、安心というのは心理的な話だが、日本人は安全ではなく安心で動く指摘する。池田氏の著書から引用を続ける。日本では政府の自粛要望に9割の人が素直に従い、従わない少数派をバッシングしている。リスクゼロはありえないのに、未だにロックダウン政策を続ける中国を笑えない。韓国や台湾は、国民が自分たちの手によって体制をひっくり返してきた歴史があるが、日本では、この成功体験がないので、あまりひどい出来事が起こると日本人は「自然現象だから仕方がない」とあきらめてしまう。敗戦も原発事故も消費税増税も自然現象と考え、自分たちが仕組みを変えることで生活をよりよくしていくというパトスがないから、システムが一度決まると、どう立ち回るのが得かにか頭が働かない。日本人に権力に管理されたがる人が多いのは、おそらくそういう理由であろう。本紙が届く頃終了しているが、参院選ではしっかり自分の頭で考え投票したい。(F)